

経済建設常任委員会研修報告

経済建設常任委員会は昨年(2019年)の11月29日、午前中は昨春、降霜・低温被害に見舞われた農産物の中でも特に被害が甚大と思われた「梨栽培農家の被害現況について」の調査と、午後からは田舎暮らしと共生をテーマに地域おこしを図っている「笠間市クラインガルテン」の視察研修をおこないました。その概要についてご報告いたします。

◆梨栽培農家の被害現況調査について

本委員会は昨年(2019年)の5月にその被害状況の現地視察をおこないましたが、その後の支援策や現況についても把握すべきとの観点から、前回視察調査に伺った南那須地区の梨栽培農家で、被害状況等について調査を致しました。

その被害内容は豊水・幸水にあつては例年の60%程度であり、降霜・低温時に花を咲かせていたあきづき・にっこりについては10%弱しか収穫出来ないとのことでした。調査後は直ちに庁舎に戻り委員会を開き、所管課の課長を交えてその他の農産物についての詳細な被害状況の説明を聞くとともに、今春の開花時期まで、注視して適切な対応を図りたいと委員会としての意見を付しました。

◆笠間クラインガルテン視察研修について

笠間市郊外の丘陵地にある笠間クラインガルテンの視察研修をおこないました。その概要は1区画が300平方メートルの土地に宿泊施設付き市民農園が50区画あり、37平方メートルの簡易宿泊施設と各100平方メートルの菜園が整備され、利用期間は1年単位で最長5年間で年間利用料は40万円。その全区画とも利用されていて、予約が絶えない状況でした。

この施設は笠間市の施設でJA茨城中央が指定管理業者として管理・運営をおこない、施設内には農産物販売所・そば処・クラブハウスがあり、その売上金と区画使用料で管理・運営の全てを賄い市からの指定管理料は0円とのことでした。

利用者は、市外・県外の人が多く、利用者間および都市住民との交流も盛んで年間を通して様々なイベント・事業が展開されており、本市の農地活用や都市間交流についても参考になる有為な視察研修でありました。以上ご報告いたします。

経済建設常任委員会委員長 久保居 光一郎



クラインガルテンで所長の説明を受ける議員